

ゆめ いく  
「夢育」  
～夢を育む教育～



子どもたちは夢を持っているの？

□小中学生に関するデータ

県内児童生徒(岡山市を除く)の回答	小6	中3
「夢や目標がある」	66%	44%

全国学力・学習状況調査(平成31年4月実施)より

これらの数字を見て、どう感じるでしょうか。子どもたちが抱く「夢」の大きさや実現の難しさは、発達段階や周囲の環境などによっても異なります。上記や右記の回答も、多くの子どもたちが「夢」を将来就きたい職業や、かなうまでに時間のかかる大きな望みととらえている結果なのかもしれません。

□高校生年代に関するデータ

「将来の夢を持っている」と答えた17～19歳男女の割合の各国比較

日本	60.1%
インド	95.8%
インドネシア	97.0%
韓国	82.2%
ベトナム	92.4%
中国	96.0%
イギリス	91.1%
アメリカ	93.7%
ドイツ	92.4%

日本財団「18歳意識調査」調べ(2019年)



「夢」ってなんだろう？

「あなたの夢は何？」と尋ねられたら、子どもたちは何と答えるでしょうか。「プロサッカー選手になる」「世界一周旅行に行く」など、将来就きたい職業や、かなうまでに時間のかかる大きな望みを答える子どもが多いかもしれません。



岡山県教育委員会が考える「夢」と目指す「夢育」とは？

「夢」=今はできないけれど、実現したいこと

人生の目標となるような大きな夢を育むことは素晴らしいことです。しかし、「今すぐやってみよう」と思う身近な目標を「夢」として挑戦していくことも、とても大切なことではないでしょうか。

「夢育」=「夢」を育み、その実現に挑戦することで、「自分を高める力」を養う教育

「夢育」では、子どもたちが多様な経験や多くの人々との出会いの中で、自分からやってみたいと思える「夢」を見つけることを支援します。そして、子どもたちはその実現に向かって挑戦していく経験を繰り返しながら、意欲や自信などの「自分を高める力」を養い、学びに主体的・積極的に取り組むようになります。やがて「自分はどう生きたいのか」という自分の人生について考える取組にまでつなげていきたいと考えています。



保護者の皆さんへ  
教育方法学の専門家  
岡山大学  
中山 芳一  
先生からのメッセージ

コロナ禍で皆さんは、いまがどれだけ先の見えない時代かを実感されていることと思います。これからそんな時代を生き抜く子どもたちは、決まりきった正解ではなく、様々な状況に応じた納得解を見出せなければなりません。だからこそテストで測れない非認知能力が、いま多くの国々で注目を集めているのです。さらに、そこには自分の「生き方の軸」が必要となります。ガッシリと変わらぬ柱ではなく、変化に対応できるためのしなやかさを持ち合わせた軸です。思いきり考え、悩み、迷ったとき、自ら大切にしたい生き方と照らし合わせて、決断と行動と反省をできるようになってほしい！子どもたちには、「夢育」でそんな軸を育ててもらいたいですね。

家庭から始める「夢育」の  
2つのステップ！

子どもたちが夢を育むため、保護者をはじめとした周囲の大人はどのようにかかわればいいのか。以下の2つのステップを意識してみましょう。

STEP 1 いろいろな体験をさせる

子どもたちが「やってみたいな」と思える小さな夢を自分の中に育むことができるよう、多様な体験をし、また多くの人々と出会えるように支援しましょう。そして、その夢への挑戦にあたっては、「伴走者」として子どもたちの主体的な取組を応援しましょう。

STEP 2 子どもの良さを見つけ、伝える

STEP1のプロセスで子どもが見せる自分の良さを大人が見つけ、それを子どもに伝えることで、本人に意識付け、その行動を強化していくことが大切です。行動を見逃さず、適切なタイミングで伝えていくことで、子どもたちも自覚して、そんな自分になろうと努力していきます。



自分を高める力の育成  
(「意欲」や「自信」など)

こうした「自分を高める力」は、数値化できない「非認知能力」ですが、「夢育」でこうした力を養うことは、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力」の育成にも、相互作用的にプラスの影響を与えられています。

お悩みにお答えします！



「うちの子どもには夢がないようです。」

自分の中に「夢」を育む時期は、一人ひとり違います。その子の中に「やってみたいな」という思いが芽生えるのを根気強く応援していきましょう。

「小さいころからずっと持っていた夢が最近変わってしまったようです。」

成長の過程で自分自身や社会について知る中で、現実の社会と折り合いをつけながら、軌道修正を加えることもあります。変化のきっかけや理由を丁寧に聞き、考えが深まった過程を理解し、夢への挑戦を応援していきましょう。

